

第11期 第1回 練馬区循環型社会推進会議（発言要旨）

日時、場所	令和3年12月14日（火） 9時30分～11時30分 練馬区役所本庁舎5階 庁議室
出席者	出席委員名 12名 庄司委員、森（朋）委員、入江委員、佐藤（良）委員、長坂委員、松浦委員、森（哲）委員、高橋委員、鈴木委員、佐藤（公）委員、五十嵐委員、市川（朋）委員 事務局 6名 環境部長、環境課長、清掃リサイクル課長、みどり推進課長、練馬清掃事務所長、石神井清掃事務所長

【次第】

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 議題
循環型社会推進会議について
令和2年度練馬区第4次一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について
- 4 その他
不燃ごみの資源化事業の実施について
次回開催について（施設見学会）
- 5 閉会

議 事 内 容

清掃リサイクル課長

定刻になりましたので、第11期第1回練馬区循環型社会推進会議を開催いたします。会長、副会長の選任までの間、私が進行を務めさせていただきます。会議の内容につきましては、会議録として区のホームページと区民情報ひろばで公開いたします。それでは、はじめに、環境部長からご挨拶申し上げます。

環境部長

皆さん、おはようございます。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。どうぞよろしくお願いたします。第11期の第1回目ということになります。本来ならば、委員の任期が始まる4月中に開催したいところでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響から、会議の開催時期が遅れてしまいました。前期、第10期の最後の開催は、12月15日で行いました。そこから、これまでの約1年間、新型コロナだけでなく、脱炭素社会の問題等、世の中の動きがありました。脱炭素、二酸化炭素をなくすにはどうしたらいいのかということ、まさに、この会議体のテーマである、循環型社会にしていかなければなりません。そのために、どのように具体的な行動に結びつけていけるか、皆様方といろいろとご相談していきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。

清掃リサイクル課長

それでは、次第に沿って進めてまいります。次第2、委員紹介です。お手元に資料1をお願いします。今回、第11期の最初の会議ですので、委員の皆様には自己紹介という形で、順番に一言いただきたいと思います。

委員

このような会議に参加させていただくのは初めてです。私は、個人で整理収納アドバイザーという仕事をしております。また、フリーマーケットのお手伝いなどをさせていただいております。

委員

練馬のまちづくりをいろいろと進めさせていただいています。公園や緑もまちづくりには大切だとは思いますが、循環型社会を作っていくことが、都市型のまちづくりには非常に重要なことだと思ひまして、応募いたしました。

委員

私は以前、練馬区が資源のリサイクルについて盛り上がってきた時代に、この会議に参加していました。初めて道路にリサイクルの箱が並んで、回収が始まったときには、ずっと眺めて感動していました。今回もう一度、参加させていただきましたので、新しい意見が伺えたらと思います。

委員

私は現在、練馬区内で2か所、マンションの管理と清掃をやっております。毎日ごみとの戦いです。もう少し分別していただければいいかなと思いますので、どうしたらいいか皆さんのお知恵を借りたいと思います。

委員

ごみの分別が趣味で、ごみリサイクルについてとても興味があります。家庭内でも分別担当ということで任されていて興味深いものですから、またいろいろと質問させていただきたいと思います。

委員

練馬区の清掃リサイクル活動団体の推薦で参りました。どうしたらごみを減らすかということを、実践面から、それぞれの各町会・自治会にお願いをする、その取りまとめをやっているというところです。コロナの問題、プラスチックごみの問題等、これから、区民に、企業も含めて、実践面でどうやっていくか。この会議の重要性がますます出てきたと思います。

委員

練馬区教育委員会から参りました。学校で行っている環境教育等について、この会議で

得たことを生かしていきたいと思っております。

委員

23区のご家庭ごみを毎日、収集保管しています、一般社団法人東京環境保全協会、50社の立場でお伺いいたしました。私も、この会議に出席させていただいたのがちょうど21年前なのですけれども、その頃から今を比べますと、本当に循環型社会の形成が進んでいるなと思います。リサイクルやリユース、リペアという考え方が社会的に定着してきたということは、循環型社会が本当に確立しつつある。逆に言うと、今が一番大事なときで、ここで手を抜かないというのも一つのポイントだと思います。

委員

練馬区の商工会議所の練馬支部から参りました。練馬区内で和菓子店を営業しております。私どもは食べ物を扱っています関連で、フードロスの問題ですとか、そういうことで何か提供できればいいかなと思っています。また、この会議で皆様とお話したことを、商工会議所の方に持ち帰って、一つの事例として進めていけたらと思います。

委員

練馬区商店街連合会から参りました。商店街の中でどうやって分別していったらいいのか、皆さんから話を聞きながらやっていきたいと思っております。

委員

今は大学で勤めております。研究者としての専門は、廃棄物工学ですが、もう一つ、環境教育や持続可能な開発のための教育も専門になります。環境学全般、廃棄物問題、地球温暖化、海洋性プラスチックの話、生物多様性を含めて、大学で授業をしています。若い方の環境問題に対する関心が高いのだなというのを日々、感じています。この会議の場で、私自身も勉強させていただいて、大学での授業にも生かしてまいりたいと思っております。

委員

私は、かなり以前から、この会議体に参加しています。私自身は長く東京都で仕事をし、廃棄物行政に関わっていました。これからのごみの問題は、根幹では、地球温暖化の問題も抱えています。地球温暖化対策の中で、どのようにごみの処理を位置付け、実践していかなければいけないかという事を考える時代になっていると思っております。そういう面から皆さんといろいろ話し合っ、アイデアを出していきたいなと思っております。

清掃リサイクル課長

委員の皆様、ありがとうございました。

続きまして、事務局職員の自己紹介をさせていただきます。

(事務局職員の自己紹介)

清掃リサイクル課長

それでは、会長、副会長の選出です。練馬区リサイクル推進条例施行規則第4条第2項により、委員の互選ということになっています。どなたか立候補あるいは推薦される方がいましたら、挙手をお願いいたします。

(挙手等無し)

環境部長

特に立候補等も無いようですので、事務局からご提案させていただきたいと思います。会長には、清掃行政にかかわった経験を有し、その経験を生かしていただきたいという期待を込め、委員をお願いしたいと考えております。御賛同いただける方、拍手をお願いいたします。

(拍手)

環境部長

ありがとうございます。それでは、委員に会長をお願いしたいと思います。続きまして、副会長には、国土館大学で環境教育に取り組んでいらっしゃる、委員をお願いをしたいと考えております。御賛同いただける方、拍手をお願いいたします。

(拍手)

環境部長

ありがとうございます。それでは、委員に副会長をお願いしたいと思います。両委員、お手数ではございますが、会長席、副会長席へのご移動をお願いいたします。改めまして、会長と副会長からご挨拶をお願いします。

会長

皆さんの取りまとめ役として、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。ごみ行政をどうすべきか、これからは、地球温暖化防止という視点からも考えていかなければいけないと、そういう思いです。よろしく申し上げます。

副会長

この会議では、現場のご意見や、区民の皆様のご意見が伺えるので、毎回、参加することが楽しみです。この会議は、皆さんの発言数も多く、本当に活気のある会議だと思います。今期も引き続き、活発な議論を交わしていければと思います。よろしく申し上げます。

清掃リサイクル課長

ありがとうございました。ここからの議事進行は会長をお願いいたします。よろしく申し上げます。

会長

ここからの議事進行を務めさせていただきます。それでは、議題（１）循環型社会推進会議について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

（資料２、資料３の説明）

会長

ありがとうございました。今、事務局から、循環型社会推進会議について、説明がありました。何かご質問がある方は、挙手をお願いいたします。

（なし）

会長

では、次の議題に移ります。議題（２）令和２年度練馬区第４次一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

（資料４ - １～３の説明）

会長

ありがとうございました。今、事務局から、令和２年度練馬区第４次一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について、説明がありました。何かご質問がある方は、挙手をお願いいたします。

委員

新型コロナによって、家庭ごみが増えているという理解をしたのですが、例えば、練馬の事業系のごみの排出される量も多いと思うのですが、それが無くなったとしても、家庭ごみが増えているという、理由は何ですか。

清掃リサイクル課長

飲食店等から出るごみが減っているということがございます。そこから推測しますと、恐らく、外食をする機会がかなり減っていて、その分、家で食事をしており、そのため、家庭から出るごみが増えているのではないかと感じています。

委員

事業系ごみは減っていて、家庭ごみは増えている。両者の合計で見れば差し引きゼロのように感じますが、そうではなく、ごみがどんどん増えているというのが不思議ですが、それはなぜでしょうか。

清掃リサイクル課長

家庭で過ごす時間が増えているということが、理由のひとつではないかと感じています。特に、顕著にごみ量が増えているものは、粗大ごみです。令和元年度の粗大ごみ量は、かなり増加しました。家の中の整理をされた方が多かったのだと思います。年度の後半になるにつれて、大型の粗大ごみが出てくる印象でした。家具の買い換え等が頻繁に行われていたのかなと思います。

委員

ありがとうございます。よく分かりました。

会長

私もその関連でお聞きします。家庭で食べるようになってごみが増えた、というのは、持ち運びする包装が増えたとか、容器包装プラスチックが増えたということも、理由として考えられます。この点について、何か区としての調査結果等がありますか。

清掃リサイクル課長

まだ確定ではないですが、今年度実施した排出実態調査結果の速報の数字としては、容器包装プラスチックや、テイクアウトの際に一緒についてくる使い捨てのフォークやスプーン等の製品プラスチックの割合が、前回の調査結果と比較しますと、増加しています。家庭での滞在時間が増えたことや、飲食を外食ではなくて自宅でするようになったことなどの生活様式の変化が、影響しているのではないかと感じています。

会長

ほかにございますか。

委員

お店が食べ物を作る時は、例えば、お肉だったら1キロ、2キロで、大きなパックに入っているのでしょうかけれども、それを個人で100gずつ10人が買うと、その分のパックが必要になり、10倍になってしまうわけですね。また、お店が野菜等を買う場合は、1つの箱に100本とかで入っていますが、個人が買い物をするスーパーでは、例えばキュウリやトマトは少量でトレイに入れられています。確かに、スーパーでは、みんなが触るので、衛生面等の配慮があるのだとは思いますが、 unnecessaryな包装が多いと感じます。まだまだ見直すところはたくさんあるのではないかと思います。

会長

その点は、これから考えていかなければならない、非常に重要な着眼点だと思います。ほかにございますか。

副会長

私もいろいろとデータを調べていますが、先進国の中で、プラスチックの全体的な排

出量が、断トツに多いのはアメリカで、日本の排出量は、他の国と比べて、多いわけではありません。ただ、それを1人あたりの排出量で計算し直すと、日本は世界第2位というデータがあります。様々なデータがあるのですが、そのデータでは、アメリカに次いで、日本は、使い捨てのワンウェイプラスチックの容器をたくさん使っている国民であるという結果になっています。包む文化があるというのと、良くも悪くも非常に高い衛生観念があって、他国に旅行をしたことがある方は分かると思うのですが、ここまでスーパーでたくさん包んで、売るという国は、世界的に見てもあまり無いです。持続可能な消費と生産というSDGsの目標から考えると、ごみの発生を抑制するという政策に主眼を置く時代になってきています。もう一つ、SDGsの観点で重視されているのは、この練馬区でも重視されていますが食品ロスです。これが、環境問題の水問題とか、温暖化の問題との関連が非常に強いので、この二つについては、これから練馬区としても力を入れていっていただきたいというところです。

会長

ほかにございますか。

委員

おうち時間が長くなりましたので、家庭ごみは当然増えたと思うのです。事業系のごみが減ったのは、リモートが多くなり、会社に出勤しないため、企業のオフィスのごみがどんどん減りました。それから、イベントが全く無くなりましたので、イベントのごみも無くなりました。増えてしまったのは、医療系廃棄物です。コロナによる注射針や、ガーゼ等が非常に増加しています。

会長

ほかにございますか。

委員

私の住んでいる光が丘の団地で、コロナの問題が起きる前と現状でどうかというと、火曜日と金曜日が可燃ごみの収集日ですが、特に火曜日は、土日のごみが集中してまいります。その結果、可燃のコンテナが満杯になってしまって、コンテナに入りきれないほどです。単純に2倍増えたというふうに考えていただいたらよろしいかと思います。その中身は、ほとんどが食品関連です。次いで多いのは古着等の衣類です。具体的な形で見ると、食品が激増、それから衣類関係が激増ということで、その他のごみは、そんなに大きな変化はないと感じています。

会長

ほかにございますか。

委員

古着は、私の近くですと毎週土曜日に石神井清掃事務所で回収しています。そこに行く

と、ほとんどトラックいっぱいになって、毎週こんなに古着が出るのかというぐらいです。それがごみの方に回している人が結構いるということですね。分かりました。

会長

ほかにございますか。

委員

私は、整理収納アドバイザーとしまして、1都3県いろいろな一般の御家庭に伺っています。これまで、なかなか時間が無くてお片付けができないという方が多かったのですが、コロナ禍で時間ができたことにより、各ご家庭で断捨離が進んでいるという傾向を見させていただきました。整理収納アドバイザーが伺わせていただくようなお宅というのは、一般家庭よりも少し物が多いかなというお宅が多いです。お時間にゆとりがある方や、ごみの分別意識が高い方は、きちんと分別して、週1回や月2回など、それぞれ回収される場所と時間に、意識的に持って行ってくださるのですが、なかなかそのような時間が取れない方や、意識が低い方は、ごみも資源も一緒にして、まとめて可燃ごみとして出される傾向にあり、そこはすごくもったいないと思います。また、これまで家の中でごみとして扱っていなかったもの、これまでお家の中に溜まっていたものが循環して流れていったことによって、ごみとして出されるものがすごく増えたと感じています。きちんとしたところへ持っていけば、まだ利用できたり、リサイクルできるものでも、なかなか忙しくてそのような時間が取れない方というのが世の中にはたくさんいらっしゃいます。その点について、うまく循環していくにはどのようにしていけばいいかと微力ながら考えております。

委員

粗大ごみを断捨離ということ、これは一つの大きなポイントだろうと思います。また、私どもは、古着を集団回収していますが、新聞、雑誌も集団回収しています。近年、新聞、雑誌の発行量が減ったので、新聞、雑誌の量が減っているのですが、断捨離によって衣類が増えたので、量的には、新聞、雑誌の減った分を衣類でカバーしているというのが現状です。

委員

参考情報ですが、私の家庭では、古着を集団回収に出せなくなりました。昔は古着を出せたのですけれども、今は東南アジアの方で受付がなくなりましたということで、古着はもう回収しませんということになっています。

会長

古着に限らず、集団回収の今の状況はどうなっていますか。

清掃リサイクル課長

区立施設での回収や町会に集団回収にご協力をお願いしているところではございますが、集団回収の場合、ある一つの場所にお持ちいただくことが多く、高齢化等により、回収場

所まで持って行くことが難しいという問題があるととらえています。

会長

区は、そのような問題についての対策を何か検討していますか。

清掃リサイクル課長

区立施設での回収や集団回収へのお持ちいただくことが難しいということであれば、集積所に出していただくこともできます。ただ、この対応ですと、集団回収を行う場合の町会の収入には結びつきません。地域の活性化と集団回収といったものを、どうにか結びつけられないかと、考えております。

会長

ほかにございますか。

委員

先日、テレビで、とても着られないような状態の古着が、東南アジア等の海外に送られているのを見ました。それらについて、何か他に良い利用方法がないか考えていただければと思いました。

委員

古着の問題で、一番問題は、古いとか汚いとかというよりも、濡れていたら駄目です。保管で絶対に雨に濡らさないということが条件で、濡れてしまった古着は完全に乾かしてからではないと出せない、濡れたままでしたら単純に可燃ごみで処理する以外ないというのが実態です。一般家庭では、決められた場所に持って行かなければならないという今の制度も、高齢化が進んでいくような状況で考えると難しいと思います。受け入れた方はどうするかというと、そのまま商品として転売できそうなものを転売し、転売できないものは、まとめて原材料として海外に輸出するというということです。そして、海外では、それを原材料として購入する日本の企業があって、それを製品化して、また日本に持ってくるといのように、ぐるぐる回している日本の大企業は幾つかあります。そういう循環を考えると、それなりのやり方はあるということで、実態よりもシステムが遅れているという面はあります。しかし、理想論だけでお金をかければいいというものではなく、様々なことを考えていかなければいけないと思っております。

会長

これは今後の課題だと思えます。私たちもどうしたらいいか、知恵を出し合って、事業者の方からお話を聞いた上で、仕組みづくりをしていくことが大切だと思えます。

では、次の議題に移ります。議題4その他(1)不燃ごみの資源化事業の実施について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局

(資料5の説明)

会長

ありがとうございました。今、事務局から、不燃ごみの資源化事業の実施について、説明がありました。何かご質問がある方は、挙手をお願いいたします。

委員

先ほどの資料で、ごみ処理経費の問題が出ておりました。不燃ごみ資源化事業の実施をすることによって、どのぐらいの経費の削減が見込まれていますか。

事務局

今のところの試算だと、ごみ収集車両の経費で約3億円の経費の削減があります。ただ、この事業をするにあたって、新たに、選別作業の人件費等の必要経費も出てきますので、3億円がそのまま浮くというものではないのですが、その中でやりくりをしながら、不燃ごみ資源化事業を進めていきたいと考えております。

会長

ほかにございますか。

委員

リサイクル、リユース等「もう一回使う」という、区民的な意識は上がってきていますが、「捨てるごみに気を使う」ということが、まだ徹底されていないと感じます。特に、中身の残ったスプレー缶やリチウムイオン電池が原因のごみ収集車両の火災が起きています。ごみの分別の徹底をしていただくとありがたいと思います。

会長

ほかにございますか。

委員

ベルトコンベアにおける分別作業は、どれぐらいの人件費がかかりますか。

事務局

中継作業全体で、20人から25人ぐらいの作業員を使っていく形になると思います。現在の試算では、約1億から2億円になる見込みです。

会長

ほかにございますか。

委員

リチウムイオン電池ですが、種類がたくさんあるので、皆さん分からないのだと思うのです。ごみと一緒に捨てていいのか、発火する電池なのか、発火しない電池なのか、それを分かりやすく、パンフレットみたいなものを作っていただきたいと思います。

会長

この点について、区で何か検討していますか。

事務局

モバイルバッテリーやリチウムイオン電池が生活に溶け込んでいるのですが、その分別については、区民の皆様浸透していないのかなという部分がございます。周知方法について、重点的にやっていかなければいけない部分というのは区としても捉えておりますので、今後検討していきたいと思っています。

会長

その点はぜひ、この会議でも知恵を出すようにしたいと思います。

委員

充電の電池が良くなったので、ものすごく増えています。

会長

電池の問題も課題だと思います。ほかにありますか。

副会長

普及啓発や環境教育は、全部の問題に効いてくる唯一のアプローチ方法だと思います。学生に聞くと、温暖化の話やごみの分別の話というのは、もう聞き飽きた、と。今の若い方は生まれたときからずっとその情報を耳にしているので、いつもどおりの情報を流してもスルーされてしまう。そういう大人も多いと思います。今までどおりではなく、緩急をつけ、リチウムイオン電池に特化した普及啓発に打って出るとか、古着については、ファストファッションの問題も関わっているので、「それはすぐにごみになりませんか」という商品選択を問いかける方向に、舵を切っていく時だと思います。その時々の特徴を持たせ「いつもと違う広報をやっているな」と思わせる工夫をしていただきたいと思います。

会長

ほかにございますか。無いようですので、次回の開催について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局

次回の開催につきまして、現時点での予定になりますが、来年の5月頃に、光が丘清掃工場の施設見学を実施したいと考えております。今回から次回までの間が空いてしまうの

ですが、工場側の都合や開催時点での新型コロナウイルス感染症の感染状況に左右される部分もございますので、御理解いただければと思います。5月近くになりましたら、事務局から書面にてお知らせさせていただきたいと思います。

会長

ありがとうございました。今、事務局から次回の開催について、説明がありました。何かご質問がある方は、挙手をお願いいたします。

委員

令和4年度は、マラソンを初めとして、今までに中止になっていたイベントがほとんど復活です。ですから、ごみの問題も、ウィズコロナの時代の区民の生活パターンはどうなるのか、そういう視点から検討した方がよろしいかと思います。

会長

そうですね。これからは、コロナ対策ではなくて、ウィズコロナということを念頭に置いて考えていかなければいけないと思います。

それではこれをもちまして、第11期第1回練馬区循環型社会推進会議を閉会いたします。ありがとうございました。